

# 今後の水稻の管理について

令和2年7月7日  
加須農林振興センター

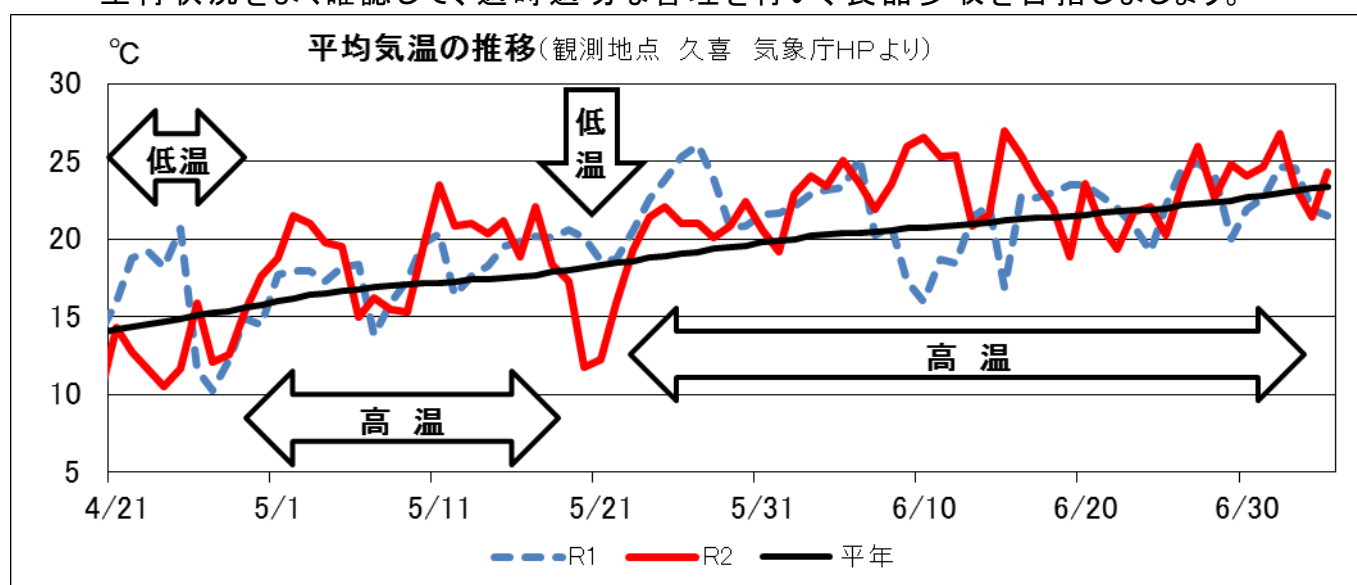
## 1 今年の生育状況

今年の早植及び普通栽培の水稻の生育は、概ね平年並みとなっています。

本年は、育苗期間の気温変動が大きく、一部の苗で苗立枯病が見られたものの全般に苗の生育は良好で、5月以降の高温により、よく活着し、生育は順調です。6月中旬にかけて気温が高く推移したため、元肥に一発肥料を使用している場合でも、中干し後入水して葉色が戻らない場合は肥切れしています。

6月24日発表の気象庁3か月予報では、7月から9月の平均気温は平年より高い確率60%、降水量は7月と9月は平年並みですが8月は平年並または少ない確率ともに40%となっており、高温への対策が必要です。

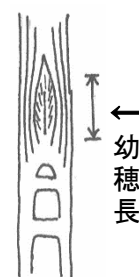
生育状況をよく確認して、適時適切な管理を行い、良品多収を目指しましょう。



## 2 穂肥の量と時期の診断方法

### (1) 幼穂長を測る ~穂肥の時期を調べる~

平均的な生育の株の中で一番草丈の高い茎を根元から抜き取り、ナイフ等で割るように切り、幼穂の長さを測ります。

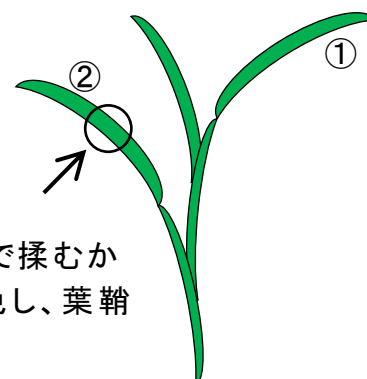


### (2) 葉色を調べる ~稲体の栄養状況を調べる~

葉色板を使って水稻の葉色を確認します。

○単葉: 株の中で、完全展開している上から2枚目の葉の中央部を葉色板から1cmくらい浮かせて葉色を見ます。

○群落: ほ場の中で葉色板を稲と同じ高さに置き、太陽を背にして5~7m程度離れて葉色を見ます。群落は通常、単葉に比べ 0.5程度薄くなります。



### (3) ヨードカリ反応を調べる ~稲体の栄養状況を調べる~

完全に展開している上から2枚目の葉鞘を丁寧にむき、手で揉むか木づちでたたいて組織をつぶします。ヨードカリ液に入れて染色し、葉鞘の染色割合を確認します。

(参考)幼穂長と出穂前日数

幼穂長	出穂前日数	外 形
0.2mm	30日	穂首分化期
1.0mm	26日	
1.5mm	24日	幼穂形成期
1.8mm	23日	
2.0mm	20日	
8~15mm	18日	止葉出始め
8cm	12日	穂ばらみ期
19cm	6日	

(参考)「彩のかがやき」の穂肥時期の目安

(平年並の生育の場合)

移植時期	穂肥施用時期	出穂時期
5月20日	7月19日頃	8月10~12日
5月25日	7月21日頃	8月12~14日
6月 1日	7月22日頃	8月15~17日
6月 5日	7月24日頃	8月17~19日
6月10日	7月26日頃	8月19~21日
6月15日	7月28日頃	8月21~23日
6月20日	7月30日頃	8月23~25日

3 穂肥の施用

もみ数の確保による収量の向上や、稲体の活性を維持することによる登熟の改善(白未熟粒発生などの高温障害防止)のため、穂肥を適切に行います。

施用の時期が早めだともみ数が増えやすい一方、倒伏しやすくなり、遅めだと登熟の改善に効果がありますが、遅すぎると食味が低下するので注意が必要です。

<基肥+追肥体系>

- ①高温等により中干終了後の葉色が薄い + その後も高温が予想される場合  
→ 窒素成分で2kg/10a 施用(「コシヒカリ」は1~2kg/10a)
- ②穂肥施用時期に葉色が濃い → 施肥時期を遅らせる か 施用量を減らす  
" 極端に濃い → 施用しない

<一発施肥体系>

- 穂肥施用時期に葉色が薄い + その後も高温が予想される場合  
→ 肥効パターンを考慮 → 必要に応じて追肥

<基肥+追肥体系・一発施肥体系とも>

- 出穂 10 日前(幼穂長 10cm)に葉色が薄くなった場合  
→ 窒素成分で2kg/10a 施用(「コシヒカリ」は1kg/10a)

◎葉色、幼穂長をしっかりと確認し、適切な穂肥を施用しましょう。

表 穂肥施用の時期と量の目安

品種名	作型等	施用時期 (出穂前日数)	幼穂長	葉色の目安 (単葉)	ヨードカリ 反応	施用窒素 成分量の目安
コシヒカリ	4月~ 5月植	18日	8~15mm	3.5~4.0	60%以上	2kg/10a 以内
彩のきずな	5月植	25~23日	1~1.8mm	4.0	50%以上	3kg/10a
	6月植	25日	1mm			2kg/10a
彩のかがやき	5月植	23~22日	1.8~2mm	4.0		3kg/10a
	6月植	25日	1mm			2kg/10a

## 4 水管理

### ○中干し

- ・(目的)無効分げつを抑制 →(効果)養分のバランスを改善
- ・(目的)土壤に酸素を供給 →(効果)根の活性向上
- ・有効茎数を確保したら、田面に小ヒビが入る程度に行う(強すぎ注意！)  
(彩のかがやき:田植 25～30 日後頃、60 株/坪植の場合は、有効茎数が 20 本/株)

### ○出穂前7日～出穂後7日は深水

- ・受精のため水分を最も必要な時期

### ○出穂前後以外は間断かん水

- ・湛水と落水を3～4日ごとに繰り返す → 水を供給しながら根に酸素を供給  
→ 根の活性を維持

### ○完全落水は出穂 30 日後以降

- ・出穂後 30 日間は籾にデンプンが蓄積
- ・土壤水分を維持 → 玄米の充実を向上

### ◎台風による強風・大雨、極端な低温・高温が予想される場合 → 深水管理